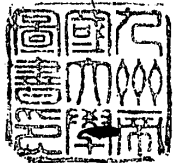


文書名	博多之記 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学文学部(国史)
撮影年月日	昭和56年 7月 14日
福岡県文化会館	





博多通路町之石

東町流十丁 柳供所町 金屋町 北舟町 東町上
東町下 濱町 濱町中 濱町下 中家町 濱町下
聖福寺町

一 岩腹町流十丁 小山町 小山町下 岩腹町 岩腹町下
市小路町上 市小路町中 市小路町下 中家町西 渡下西
奥小路町 茅堂町 茅堂町東

一 西町流十丁 万行寺町 竹巻町 濱町 西町上
西町下 藏本町 古渡町 古渡町下 奥小路町西
茅堂町西 古渡町 古渡町下

一 土居町流十丁 柳田社家町 大寺町 土居町上 土居町下



外之寺町聖福寺境内之有并桑葉と云ふ一所あり信女之

[illegible]

奥町中書明應萬法以之傳より抄録生息四居
之傳より抄録奥町中書明應萬法以之傳より抄録

日本後記曰嵯峨天皇弘仁五歲冬十月庚申皇子保十七年返國自八歲三十

續日本記三代實錄朝野群載右三書三傳多事有三代實錄

使立ル告文ニ去年六月以來太宰府言上スラク新羅賊報

二艘筑前國那珂郡荒津に至来ト在リ續日本記大津ト有リ

1

又荒津ト有ル時博多荒津一所事ト見タリ博多ヲ書ル者ハ荒津ト
八角嶋武備志ニ佐花旭塔異稱日本傳中ニ法哈地ト有東海諸國
記ニ冷泉津石城府ト有博多居士方餘戸トアリ武備志日本考ニ
云舟集ル所通ル江ノ西海道ニ坊津花旭津洞津タ坊津惣路
トス客舟往還必寄花旭塔津ヲ中津トス地方廣潤ニテ煙漆集
ス中國ノ海島此地ニ集ラサルヤ洞津ヲ末津トス地方山城相近
サレトモ貨物或備リ或ハ欽廉津ニアラサル物ナレト書ケリ異稱
日本傳ニ後二条天皇乾元二年閏四月十七日令鎮西人ニ整博多前濱
石垣續日本記仁明天皇御時新羅人筑前大津ニ來ルト云々
大津荒津トハ博多船著淡ヲサシタルヘシ續日本記光仁天皇
宝龜十一年ノ初ニ筑紫太宰府緋居西海ニ諸蕃胡貢舟ト云

天智天皇太子ニテ西國ニ下リ給シ時博多ニモ行啓アリ此時ノ
例也トテ博多富貴商家佐ニ與宿所云事有今訖テ
コシヤト云其製ハ床ヲ前ヒクニテ奥ニ段高キ所有リ是
御車轅ノツカヘシニ前ヲヒキセリト云々朝野群載ナキ卷
博多津ニ中國ノ船來リシヲ朝廷ニ告ル申文有リ中略長治
二年八月廿日長治ハ仁王七十三代堀河院年号ノ右之記セシ
所ヲ見ハ唐船入津時毎ニ言上セシ成ヘシ博多ハ古ヨリ民
家繁榮ノ地ニテ殊異國ノ襲來ノ防禦ノ爲此兵ヲ多ク置シタル所
也四方ニ要害ヲ備タリ北面ハ皆石壁ニ是上古ヨリ有ニヤ弘安
ノ時修補セシナリ此故ニ博多ヲ名付テ石城府ト云リ東ハ
袖湊ノ入海メクリ西ノ方那珂川ニ通り西ハ又湊橋ヨリ尾所

ノ表ニ通りテ陞アリ今モ行原所ノ表ニ残りテ櫛田ノ社ノ後日通
リ南ニ樓門有今其地イナシ其南ノ郭外ニ深キ障有テ
東西ニ通りシカ今ハアセテ田トナル昔龜山院文永ノ初ニアタリ
蒙古ノ國王北狄ヨリ起テ中華ヲ攻ミタカテ大元國ト号ス是
ヲ元ノ世祖皇帝トス其後度々日本ニ書翰ヲ渡シ日本ヨリ貢
物捧ヘキヨシ告来ルシカレ返翰ニサヘ及ハサリシカハ元ノ世祖甚タ
怒リ兵舟ヲ催シ斬都ト云者ヲ大將トシ本朝文永十一年十一月ニ
對馬島ニ來ル統紫ノ武士等對馬壹岐ニテ防戦此時博多ニモ防
戦有蒙古ノ軍法乱テ調ラス其上矢種ツキケレハ統紫ノ海邊所ニ
濫坊シテ帰り又其後杜世忠ト云者ヲ使トシテ日本ニ渡ス我國
又返答ニ及ハス杜世忠ト云テ是ヲ殺ス是ヨリシテ蒙古ノ軍兵

又攻来ルモヤト其備ヲナシシラル榎博多ノ海邊ヨリ東ニ宮崎
多々良海西ニ鳥飼ノ海邊榎濱生之松原今津ニ至ルニテ石塁
ヲ築テ海ヲハ多々良臺ヨリ高クコナタハヘニシテ馬ニテ騎ナカラ
馳ノホリ賊船ヲ見シロシサゲ矢ニ射ルヤウニ格タリ此石塁修理
ノ支ナト鎌倉ヨリ催促セシ文書當國所ニ今ニ尚殘レリ
長政君慶長六年福岡ノ城築ニ博多箱崎福岡ノ海邊ノ石
塁ハ御取ナサレ候今福岡御城内ニ肥前ヨリ石塁築シヨシ石
書付有リ今箱崎海邊堀ニ石壁ノ殘有リ

本朝弘安四年正月元ノ世祖皇帝日本ヲ攻ントテ阿刺罕范克
洪茶丘木子庭張拔都等ヲ將トシテ凡十万人ヲ渡ス此折節高
麗王ノ時モ又中華ヲウタントコヒテ兵ヲ割テ日本ニワタヌ中華

高田男子なくして平石物の子ありとす世に傳へ平石金創を傳
是又又西宮の事なりと云一能流傳多し能きなりと云
傳多し西運と云能流有る安藤國高西と云一者の子より作京
後、能流國高西運法師國高と別り其子能流安藤
安藤と云能流有る今傳多し能きなりと云一なり

自初めいひ安藤と云ふなりと云上西運と云能流有る一字
たの字と別り能き世俗た文字と稱し能きなりと云安藤と
稱し能き世俗たの字と別り能きなりと云能きなりと云能きなりと云
安藤と別り能きなりと云能きなりと云能きなりと云能きなりと云
又たの字と云能きなりと云能きなりと云能きなりと云能きなりと云
不流と云能きなりと云能きなりと云能きなりと云能きなりと云

今傳多しなり能流と云なり今乃能流能流と云能きなりと云
能きなりと云能きなりと云能きなりと云能きなりと云

能流國住古能流傳

高田三王流祖傳平清直清直高田高田高田

安藤

左

定行一 行弘一 貞吉一 國弘

高田西運

入西

女子一 盛高盛高盛高盛高盛高盛高

高田西運 信光信光サツノサツノ今傳傳た

一 金銀兩着荷をも者所と宿屋あるを是と云ふは
てしうへり宿屋は世難儀なりと云ふは
此等と云ふは其の事なりと云ふは
の事と傳多様とて制せりなり今他より昔は宿屋より
宿屋もいれども宿屋家の中よりいれども宿屋家
其時より控置制り者の上よりいれども宿屋家
宿屋と云ふは宿屋なり

一 金銀兩着荷をも者所と宿屋あるを是と云ふは
てしうへり宿屋は世難儀なりと云ふは
此等と云ふは其の事なりと云ふは
の事と傳多様とて制せりなり今他より昔は宿屋より
宿屋もいれども宿屋家の中よりいれども宿屋家
其時より控置制り者の上よりいれども宿屋家
宿屋と云ふは宿屋なり

一 金銀兩着荷をも者所と宿屋あるを是と云ふは
てしうへり宿屋は世難儀なりと云ふは
此等と云ふは其の事なりと云ふは
の事と傳多様とて制せりなり今他より昔は宿屋より
宿屋もいれども宿屋家の中よりいれども宿屋家
其時より控置制り者の上よりいれども宿屋家
宿屋と云ふは宿屋なり

一 金銀兩着荷をも者所と宿屋あるを是と云ふは
てしうへり宿屋は世難儀なりと云ふは
此等と云ふは其の事なりと云ふは
の事と傳多様とて制せりなり今他より昔は宿屋より
宿屋もいれども宿屋家の中よりいれども宿屋家
其時より控置制り者の上よりいれども宿屋家
宿屋と云ふは宿屋なり

一 宇治の宮内卿の家の通りとなり國中の海にひく
 一 十月廿五日の金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを
 再記に云馬九光庵の慶長七年十月廿五日の金のれなるを
 一 金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを
 一 金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを
 一 金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを

一 金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを
 一 金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを
 一 金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを
 一 金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを
 一 金に傳多の町人初集の堂上方にと金のれなるを

一宗也。此寺は日水庵の脇に徳永宗休公博多侯より奉
 長寺の寺名は此の如くありと云
 一廣利庵。今東福寺と云ふ所の後には堂の跡は遺蹟を
 二十間余に隔てせりと云
 一古庵。此庵は町奉行所家の寺の傍の庵なり。大庵と云ふ所へ
 一宗也。此庵は町奉行所家の寺の傍の庵なり。大庵と云ふ所へ
 廣利庵の寺名は此の如くありと云
 一古庵。此庵は町奉行所家の寺の傍の庵なり。大庵と云ふ所へ
 廣利庵の寺名は此の如くありと云
 一古庵。此庵は町奉行所家の寺の傍の庵なり。大庵と云ふ所へ
 廣利庵の寺名は此の如くありと云

一宗也。此寺は日水庵の脇に徳永宗休公博多侯より奉
 長寺の寺名は此の如くありと云
 一廣利庵。今東福寺と云ふ所の後には堂の跡は遺蹟を
 二十間余に隔てせりと云
 一古庵。此庵は町奉行所家の寺の傍の庵なり。大庵と云ふ所へ
 一宗也。此庵は町奉行所家の寺の傍の庵なり。大庵と云ふ所へ
 廣利庵の寺名は此の如くありと云
 一古庵。此庵は町奉行所家の寺の傍の庵なり。大庵と云ふ所へ
 廣利庵の寺名は此の如くありと云
 一古庵。此庵は町奉行所家の寺の傍の庵なり。大庵と云ふ所へ
 廣利庵の寺名は此の如くありと云

昔の神代より上り小社を奉神といふ中、要事多し
と云ふ事長しきもの故にも陸奥府に在る所門家
の文記はあり

一 山室の如き別荘に永享四年六月より陸奥府柳田郡室社
にあり三社神と神傳に南軍より後出のやくし襲し作り
物とあり上り人形等の物とあり是を解存指し成りて是を
奉りんは是物も幾多千万と云ふ故にあり是を永享四年より
寛保十七年まで二百三十八年と云ふあり、又内務省
の御書に奉りて造りしもの故に今も修多の奉りてあり
甲斐信玄の形化の奉りて寛文二年よりあり、信玄の山室
に作りしもの故に奉りて是等の家たれりや山室

れり又其の御書に奉りて是等の家たれりや山室
に作りしもの故に奉りて是等の家たれりや山室

一 雨天神の御書に奉りて是等の家たれりや山室
に作りしもの故に奉りて是等の家たれりや山室

一 柳田神社大神の御書に奉りて是等の家たれりや山室
に作りしもの故に奉りて是等の家たれりや山室

中柳田大明神
右柳田大明神

此社人皇早代孝徳天皇より奉りて是等の家たれりや山室
に作りしもの故に奉りて是等の家たれりや山室

乙官太春令御田の神世に命ふ大和服時天照大神
清酒と饗奉り神又宗像郡とし官有流司能事
神と藥師神社神名帳云々常陸大洗磯原井の神
社有少名名令とては是社のこと温泉ありそ長年井とて
の布は温泉とほひありとて湯の神ハ少名名令と記
とそ今湯布ハ此有り

庚申社後備元令と記せし大元元子庚申の年より
の日申の時移別天皇子と皇子思能と来り高全剛
則天皇子紀事後而くみちを傳へ大元元年ハ
歳寫大の神 世傳次天
聖德太子 近世多た在 思之元

一 壬辰壬子中の卯日掃田の神のありあり中卯日掃田の神
山世と伝ふ新嘗の神事とて是ハ今子の福と神と奉るは
一 丙子壬子福屋會 山世傳中卯日掃田院永き子
大なる神事なりといふ後樂の能事なりといふ文事なりといふ
二 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは
三 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは
四 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは
五 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは
六 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは
七 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは
八 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは
九 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは
十 乙丑壬子掃田の神今中卯日掃田の神と奉るは

此社は神事ありてまことに遠き所なりて流傳ありて傳へり
鳥羽所と云ふ社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ
事如社と云ふ所の社に傳へり國傳傳國と云ふ所と云ふ
社の人たゆりてあると云ふ所と云ふ所と云ふ所

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ
事如社と云ふ所の社に傳へり國傳傳國と云ふ所と云ふ所の社に傳へり

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ
事如社と云ふ所の社に傳へり國傳傳國と云ふ所と云ふ所の社に傳へり

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 鳥羽所は堂口水菰原と云ふ所の社に傳へり事如社神女は福前と云ふ所の社に傳へ

一 飛田明義寺より東に東の道の北側にありて昔は新と表する
の境内より田舎常盤の南にありて樹を多しと云ふ
道は此の所のあり

木のるよりれがゆきととも月の神をあらはして
十八代後深竹院の室の初より後深竹院の室の末
にけりて圓明はるるありて事と雖もの中十八代建三
寺の日本に本朝國所等のあり

一 養老寺境内の乳を寺十三面鏡をあらはて能者の因之をあらはるる
寺の後深竹院の室の初より後深竹院の室の末
にけりて圓明はるるありて事と雖もの中十八代建三
寺の日本に本朝國所等のあり

庵をいふは位も都よりありての庵と松月庵又松月庵
ともありて庵をいふは名を周に松月庵と云ふ松月庵より
界位といふものありて云ふとせむ

庵をいふは位も都よりありての庵と松月庵又松月庵
ともありて庵をいふは名を周に松月庵と云ふ松月庵より
界位といふものありて云ふとせむ

一 本朝の僧傳を一卷といふは前羅山教念
山の傳といふは前羅山教念
山の傳といふは前羅山教念

の益徳佛舍利結等撰り弘法自筆の文字あり其末
 又八位長公系於中於有と云明智光秀教と云明智光秀
 朝宗と云と云合ひたりと云又文範記入ありと云又通なり
 常徳井家と云ありと云又東長寺院の代物を明ひたり
 一思之云本堂天皇天皇年あり寺名も東長寺院と云と云
 元年二月十二日思之云年を給たりと云又青岡院と云と云
 又寺の北ありと云と云福と云と云と云又寺後宮水に年
 二月廿日思之云年を給たりと云又明智光秀教と云と云
 と云又明智光秀教と云と云と云と云と云と云と云と云
 延暦寺八幡宮と云と云と云と云と云と云と云と云と云
 從四位下並僧返松平右衛門從忠之公

高僧院殿佛書家英大居士 行年五十四 二月十五日

約宛 田中五事書信 竹田如進 長瀬九事書
 尾上如進 山伏明廣院

一臨江山梅照院妙音寺青の書ありと云と云思之云公の御事
 府華屋好良院法中と云寺名あり妙音と云改を名ふと云
 佛宗と云と云の末の尼寺と云妙音と云と云月堂和安の母尼
 成書と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
 并延と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
 川邊所住有と云と云と云と云と云と云と云と云と云
 の位職と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
 一石蔵山妙音寺青の妙音院の通なりと云と云と云と云

一 龍龍寺 龍目寺の側あり

一 起雲山 本島寺 芳良寺あり 今金名に成る 昔は進修寺
と云ふ人建てるなり 中志摩郡古祖村の人といふ寺の目蓮の後継り
文書ありと云目蓮の首と稱し 一とぬける 極く極くといふ

一 惟昂山 法住寺 昔は市あり 今白水といふ 風俗は極く
正長元 或は日親上人 國老國中 法華宗最妙と云傳し 七
と音ありと云

一 袖婆山 老壽寺 福祿寺 古在町あり 昔は古の道場と云 隆行
上人 祐吉の字あり 祐吉の計あり 極く極く

一 万行寺 昔馬場町あり 今と云ふ 古の寺と云 運文寺中
今のと云 極く昔の寺あり 此柳町の姓を名月と云 勸め

を 寺の再興あり 此方の寺は極く極く 極く極く 極く極く
昔より白蓮といふ 此の寺は古の寺あり 昔は極く
此の道場 せり 古の名月と云 極く極く 極く極く
此の寺あり 此の寺あり 極く極く

一 福祿寺

一 天福寺 昔は東長寺と云 此の寺は古の寺あり 極く極く 極く極く

一 田樂寺 昔は極く極く

一 宝樹山 西光寺 昔は極く極く 極く極く 極く極く

一 心堂寺 川橋町あり 昔は極く極く 極く極く 極く極く

一 宝樹山 宗政寺 昔は極く極く 極く極く 極く極く

一 冷泉山龍泉寺 昔、所のお例に今、柳氏を有り、お社あり
自、元元、平年、冷泉の海より人、泉と稱し、朝廷と奉り、
冷泉の海より、お寺、有り、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
し、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
十七、平年、と、お寺、有り、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
寺の事、あり、お寺、有り、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
し、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
何、し、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
七、平年、の、内、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
天、平年、七、平年、の、内、人、泉と稱し、朝廷と奉り、

其、龍泉山、龍泉寺、あり、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
泉の類、あり、

一 金波山龍泉寺 昔、所のお例に今、柳氏を有り、お社あり
自、元元、平年、冷泉の海より人、泉と稱し、朝廷と奉り、
冷泉の海より、お寺、有り、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
し、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
十七、平年、と、お寺、有り、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
寺の事、あり、お寺、有り、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
し、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
何、し、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
七、平年、の、内、人、泉と稱し、朝廷と奉り、
天、平年、七、平年、の、内、人、泉と稱し、朝廷と奉り、

○本年三月十日宇佐藩定、東照宮御成道、御祭上
以候、西郷の祭主、宇佐藩主よりありと云

○本年十月十日宇佐藩、東照宮御成道御祭、御祭上

御祭主、御祭上四方、御祭上四方、白著

御祭上、御祭上四方、御祭上四方

御祭上、御祭上四方、御祭上四方

二、御祭上四方

御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

一、御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

○御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

御祭上四方、御祭上四方

